

月報・日本から発信！

6月号の内容

「ソーシャル・メディア」の時代が到来
 根深い官僚制に挑む安倍改革の行方
 日本企業の国際化と経営パフォーマンス
 資本市場の発展に誠実性が不可欠

「ソーシャル・メディア」の時代が到来

人間の自己表現とコミュニケーションの意欲はとどまるところを知らない。最近の情報革命は、個々人の自己表現と相互交流を「メディア」として社会に広く発信することを可能にした。実際に、ブログやSNS（ソーシャル・ネットワークング・サービス）は、今や多くの人の生活に深く浸透している。

このような状況を背景に、個々人が参加するメディアとしての「ソーシャル・メディア」の現状と将来について、5月9日に情報発信セミナーが開催され、湯川鶴章時事通信編集委員が、最近の著書『爆発するソーシャル・メディア』に基いた内容のプレゼンを行なった。

湯川氏によれば、人々の自己表現力とコミュニケーションの意欲は国や文化の特性を超えた人間の根源的な欲求であり、それが現在「ソーシャル・メディア」という形でグローバルに爆発的な発展を遂げている。また、それがリアルな

世界からバーチャルな世界（例えば「セカンド・ライフ」）へと大きく展開して、多くのビジネスや広告の資金まで引き付ける存在になっている。個々人のニーズに対応する「ソーシャル・メディア」が現在一世を風靡する検索エンジン「グーグル」を凌ぐ新しいメディアのモデルになるのではないかと湯川氏は展望する。

セミナーではこれらの点について活発な討論が行なわれ、果たして自己表現の意欲や方法について、日本人と欧米人の間で大きな差はないのかどうかといった点に議論が集中した。いずれにしても今後ともこのような動きに注目していく必要があることを強く感じさせるセミナーであった。

湯川氏の「ソーシャル・メディア」に関する論文については以下を参照。

http://www.glocom.org/opinions/essays/20070416_yukawa_explode/

-- 宮尾尊弘（情報発信機構長）



セミナーで講演する湯川鶴章氏

情報発信機構とは

「情報発信機構」は、日本をめぐる重要問題について有識者や専門家の意見や討論をグローバルに発信することを使命とする非営利組織。

ウェブ上では情報発信プラットフォーム（www.glocom.org）で、オピニオン、ディベート、ニュースなどを発信、またニュースレターやメールマガジンも定期的に発行。さらにセミナーも毎月開催。

根深い官僚制に挑む安倍改革の行方

フォーリン・プレスセンター評議員の石塚雅彦氏は、定年前に退任する官僚に手厚く民間企業や団体の役職を紹介する「天下り」の慣習を厳しく批判、一元化された中央官庁官僚の再就職斡旋のための「人材バンク」が創設され、各省庁の管轄企業への影響力を排除することが期待されると説く。さらに、多くの民間企業の不祥事により不信感が広がり、官僚が民

間企業やメディアに対しても規制を強化する格好の口実になっているが、われわれの目指すのは真に自由で効率的で独立心を持った社会であり、それを実現するためには、独善的な官僚制を廃止することが決定的に重要であると提言する。

http://www.glocom.org/opinions/essays/20070501_ishizuka_abe/

「情報発信プラットフォーム」掲載主要論文の要旨

日本企業の国際化と経営パフォーマンス 小林規威 (慶應義塾大学名誉教授)

企業経営の国際化が世界の趨勢となる中で、注意しなければならないのは、国際化は経営目的達成の手段であって、それ自体が目標ではないということである。

そこで、国際化と経営パフォーマンスの関連性について検討した結果、日本の国際化企業66社について、以下の4つに大別できることが判明した。I. 「国際化チャンピオン」(グローバル化もパフォーマンスも高水準の33社) II. 「国際化チャレンジャー」(パフォーマンスは良いが国際化は低水準の14社) III. 「パフォーマンス・チャレンジャー」(国際化は高水準だがパフォーマンスは低い14社) IV. 「問題児」(国際化もパフォーマンスも低水準の5社)。

長期的トレンドとサイクルについて、国際化チャンピオンの代表的企業について検討した結果、以下の3点が

明らかになった。(1)国際化やパフォーマンスの指標の推移には山谷のサイクルが認められる。(2)経営パフォーマンスのさまざまな指標が同時にピークやボトムを経験することは少ない。(3)国際化や経営パフォーマンス向上には、相当期間、継続した努力の積み上げが必要。

結論として、国際化が進展するなかで経営パフォーマンスを維持・強化するには、国際化と経営パフォーマンス指標に関するトレンドとサイクルを認識し、その間のバランスを保ちつつ、適切にして自在な経営の舵取りを継続していかなければならないといえよう。

英語の原文: "Internationalization and Business Performance of Japanese Corporations"

http://www.glocom.org/opinions/essays/20070514_kobayashi_international/

資本市場の発展に誠実性が不可欠

池尾和人 (慶應義塾大学教授)

日本の資本市場で自由化が進んでいるが、自由の濫用とみられるような不祥事が起っているのは残念である。資本市場は法律にさえ違反しなければ何をやってもよいという場ではない。その発展のためには、誠実性(integrity)が不可欠であり、それは持続的な利益の実現という実証的な観点から導かれるものである。

一般の市場を利用するためには、一定の費用(時間と労力)が必要になる。このような費用は「取引費用」と呼ばれ、適当な取引相手を見つけるための「探索」の費用、取引条件に関する合意に達するための「交渉」の費用、および合意した内容の履行を確保するための「実行化」の費用からなる。

もし相手が利己的で法律違反さえなければよいと考えている存在であれば、その相手から不利な内容の条件

を押しつけられないよう、交渉に大変な時間と労力を要することになる。また自己の利益や権利が侵されないよう、実行化の費用も著しく高くなる。

それらの費用をおさえるためには、道徳観および倫理感が存在し、互いに相手を信頼できる土壌がなければならない。こうした誠実性が、特に抽象的な商品を取引する場である資本市場の成立のために不可欠である。

資本市場が一層発展するためには、法律遵守を超えて、実質的な誠実性に基いて行動することが必要であり、それによって不祥事を根絶し、信頼して取引を行なえる市場環境が作り出されなければならない。

英語の原文: "Integrity is Indispensable for Capital Market Development"

http://www.glocom.org/opinions/essays/20070521_ikeo_integrity/

後記

次回6月13日の情報発信セミナーの第2部(17:00より)では、小林規威教授に「日本企業の国際化とパフォーマンス」というテーマでご講演頂きます。参加希望の方は下記にご連絡下さい。前田

月報・日本から発信!

月1回発行
発行人・宮尾尊弘
編集人・前田幹博

学校法人国際大学・情報発信機構
106-0032 東京都港区六本木6-15-21-2F
TEL: 03-5411-6714 / FAX: 03-5770-1725

国際的な情報発信活動が
展開されるウェブサイト
情報発信プラットフォーム

<http://www.glocom.org>

情報発信機構

経営委員会 運営委員会

青木 昌彦	宮尾 尊弘
猪口 孝	佐治 俊彦
牛尾 治朗	中馬 清福
行天 豊雄	勝又 美智雄
小林 陽太郎	